

新潮講座

# 日本仏教の歴史（後期）

第十二講【日蓮宗】

講師：田中成明

©Jomyo Tanaka

2020年9月24日（木）

# 日本仏教の歴史

## 日蓮宗

1) 日蓮(1222~1282)貞応元年~弘安5年2月16日安房国長狭郡東条郷片海(安房小湊)に生れた。

父は貫名重忠、母は梅菊という。幼名は善日丸といった。

日蓮は自らの出目を「海人が子なり」「石中の賤民が子なり」「海辺の栴陀羅が子なり」といった。他の宗祖とは全く異なる漁師の子、庶民の子としての誇りをもっていた。

天福元年(1233)12歳で清澄山の道善房の室に入る。この時薬王丸と名づけられた。この寺は虚空蔵菩薩を本尊とした天台宗の大寺である。

嘉禎3年(1237)10月8日16歳、出家得度して是聖房蓮長となる。

21歳鎌倉に遊学する。その後比叡山の横川に住み、勉強する。園城寺、高野山、四天王寺などを遊学する。

建長5年4月28日清澄山に帰り、清澄山の頂、旭ヶ森で朝日に向かって「南無妙法蓮華経」と十遍唱えた。このときに日蓮の名を名乗る。その後、師の道善房に法華経を説き、師匠は日蓮を追放した。

建長6年(1254)日蓮は鎌倉の名越に草庵をかまえた。そして、念仏を批判した。

「念仏は戯論、生死の苦しみより離れることは出来ぬ」禅宗に対しても「釈尊一代の教えの外に真実の悟りがあるというて悟りすますのは、慢心。親を殺して子を用いるようなもの」と指摘した。

「念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊」四箇格言

正嘉元年(1257)5月18日大地震、飢餓、疫病が発生する。

極楽寺の叡尊、忍性などが活動する。

この時、日蓮は実相寺の経蔵で一切経を閲読していた。

文応元年(1260)7月16日立正安国論を書いて北条時頼に建白した。

8月27日夜、松葉ヶ谷の草庵が焼かれ、下総に逃れた。

弘長元年(1261)5月12日伊豆伊東に流罪となる。

弘長3年(1263)2月22日42歳で赦免された。故郷に帰り、母の看病をする。

文永元年(1264)11月11日地頭東条景信に襲撃され信徒の工藤吉隆と弟子鏡忍房が落命した(小松原法難)。鏡忍寺がある。

文永8年(1271)真言律宗極楽寺良観(忍性)は偽善で国賊であるとし、また各宗の僧と対決した。この後、9月11日夜、松葉ヶ谷の草庵で弟子とともに捕らえられた。9月12日午前0時~2時にかけて、竜の口で斬首の刑。しかし、斬首をのがれた。10月に佐渡に流罪となる。

文永11年(1274)3月13日に赦免されて、鎌倉に帰る。

同年5月17日身延山に入る。

建治3年(1277)12月下痢、弘安5年(1282)10月13日武蔵国池上で入滅した。

2) 日蓮の思想(五大部)

(1) 立正安国論(文応元年 1260年)撰述 39歳

鎌倉幕府の前執権北条時頼に提出した意見書で、10番の問答によって主人(日蓮)が客(時頼を想定)を説得する形式である。

正嘉元年(1257)から文応元年(1260)にかけて大地震、洪水、飢饉、疫病が発生した。諸寺社の祈祷がなぜ無効なのか?それは、法然のすすめる念仏が謗法である。

念仏を禁止しなければ、国内の戦乱、外国の侵略の二難が近い将来に起こると予言している。「鳥羽院の御宗に法然という者ありて、選択集を作る。即ち一代の聖教を禍し遍く十方の衆生を迷わす」

(2) 開目抄(文永9年、1272年)2月 佐渡で撰述 51歳

仏教、儒教、外道(インドの宗教)などの思想全般における法華経の位置づけ。

五重相対によって法華経本門の肝心、一念三千の法門が末法の世に人々の信ずべき正法であると示される。法華経が末法の衆生を救う教えであり、日蓮こそが末法の世の導師であると宣言し「日本の柱、眼目、大船とならん」の三大誓願をいう。

(3) 観心本尊抄(文永10年、1273年)4月25日撰述 52歳

第一段には「摩訶止観」に説く、一念三千の法門

第二段本尊段、諸経の説く浄土はすべて釈尊が仮に示した無常の上であり娑婆世界こそが本仏の住する真の浄土である。

第三弘通段、一切の仏法は寿量品の本法を正宗分とすると説いて、全ての仏教が本法の妙法五字に統一された教判が示される。

三大秘法の「本門の本尊」「本門の題目」「本門の戒壇」がある。

(4) 法華経 28品 2門 6段

序品第一——————序文(第二類)

方便品第二—————

譬喩品第三

信解品第四

正宗分 葉草喩品第五

授記品第六

化城喩品第七

正宗分(第一類)——迹門三段

五百弟子受記品第八

授学無学人記品第九一

法師品第十

見宝塔品第十一

提婆達多品第十二	流通分(第二類)	
勸持品第十三		
安樂行品第十四		
從地湧出品第十五	序文	
如來壽量品第十六		
正宗分 分別功德品第十七	正宗分	
隨喜功德品第十八		
法師功德品第十九		本門三段
常不輕菩薩品第二十		
如來神力品第二十一		
囑累品第二十二		
藥王菩薩本草品第二十三	流通分(第三類)	
妙音菩薩品第二十四		
觀世音菩薩普門品第二十五		
陀羅尼品第二十六		
妙莊嚴王本事品第二十七		
普賢菩薩勸發品第二十八		

#### 法華經

(讚美、受持、書写、読誦、解説、修行の功德)

- 法華經を持する者は、誹謗され悪口、迫害される。
- 部派、大乘の人々と常に対立していたグループであった。
- 方便品第二から第九までを第一類として AD50 年に成立。
- 法師品第十～第二十一と序品を第二類として AD100 年に成立。
- 藥王品第二十三～二十七までを第三類として AD150 年に成立。
- 第十二の提婆品は 6 世紀、天台大師あたりから出て来るので、最初は 7 卷 27 品であった。
- 全部が成立したのは、AD150 年とするのは、AD200 年前後の「大智度論」(竜樹)に法華經の最後の章までの引用がある。

#### 3) 貞慶 (1155~1213)

少納言藤原通憲(信西)の孫である。平治の乱(1159)で平清盛と結んだ通憲は、源義朝に殺され一族は没落した。貞慶は 1162 年、8 歳で興福寺に入寺。後、笠置寺に隠棲する。

笠置寺は、古くから弥勒信仰の地であり、元久 2 年(1205)法然の専修念仏を批判する「興福寺奏状」を執筆した。

貞慶の弟子覚真が戒律復興の常喜院を興福寺内に作り、有能な僧侶が出た。覚盛、叡尊…

4) 叡尊(1201~1290) (興正菩薩)

興福寺学侶の慶玄の子として誕生した。11歳で醍醐寺に入寺。高野山往生院、長岳寺にて修学。34歳で西大寺に。38歳から西大寺の復興に努める。「律義を修学し、群生を饒益せん」との誓いがある。鎌倉の極楽寺、光泉寺で活躍した。

5) 忍性(1217~1303) 文殊菩薩の再来といわれた。

字を良観、大和国額安寺に出家。竹林寺にて修行。24歳の時、叡尊より具足戒を受けた。近畿各地に悲田院、施薬院を建てて、社会福祉事業に貢献した。奈良の般若寺坂にある北山十八間戸で、ハンセン病患者を看護した。「医王如来」といわれた。日蓮と雨乞いの祈祷で争ったこともある。永仁元年には東大寺の大勸進職に補せられ、翌2年には、四天王寺主務となり、悲田院、敬田院の二院を建てた。嘉元元年(1303)7月、87歳で没した。

5) 明恵 (承安3年正月8日 1173~寛喜4年、1232) 高弁ともいう。

紀州有田郡石垣の吉原村(現和歌山県有田郡金屋町歓喜寺)父の館跡、姓は平、父は重国(80代高倉天皇 後白河天皇皇子 高倉院の武者所)母は藤原宗重が四女、六角堂の観音に詣で普門品を誦す。8歳、父母共死亡。伯母に養育される。13歳、高雄山神護寺。16歳、東大寺にて具足戒を受ける。

建歴2年(1212)11月、推邪輪三巻を作る。

「専修念仏が仏教の立場からいって、邪道である、特に菩提心を否定すること。並に、聖道門は、正しい浄土信仰をはばむ群賊である、との二説は許し難い」としている。